

# 園児服における実態調査

酒井清子・佐野愛子

## The Fact-finding Study on the Colthes of Kindergarten Pupils

by

Kiyoko SAKAI and Aiko SANO

### 緒 言

子供は幼稚園児位になると、それぞれの好みが決まってくるようである。しかし、現在着用されている園児服は、園児自身の好みとは無関係に大人の感覚によって決められているのではないだろうか。特に園児服に用いられている色などは、園児の好みの色とは関係なく決められている場合が多いと思われるので、著者らは現在着用中の園児服についての問題点を知るための手がかりとして、園児服の実態調査を行ない、あわせて園児が好む色・デザインなど性別により好みの特徴があるかなどを取りあげ調査したので報告する。

### 調 査 方 法

#### 1. 調 査 対 象

名古屋市瑞穂区内の私立幼稚園2校の園児3才から6才の男児・女児あわせて400名を対象とした。

#### 2. 調 査 時 期

昭和47年7月中旬から7月下旬。

#### 3. 調 査 方 法

夏・冬服を対象として、表1のような調査項目の用紙を配布し、父兄に依頼し回収した。回収率は71%であった。

#### 4. 抽 出 方 法

幼稚園の園児全員を対象にしたため、年齢・男女児の性別のバランスがふぞろいになったので、ここでは男女児とも比較的人数の多い5才児を取りあげた。

### 結果ならびに考察

#### 1. 園児服の実態

2校の幼稚園とも同じ形式の制服を用いており、夏の男児服はブラウスとズボン。女児はブラウスとスカート。冬は男女児ともにスーツ形式の制服で、上着の下にブラウスを着用していた。

これは、幼児期の発達の特徴として身体発育の旺盛な時期にあたるので、着丈の調節ができる組み合わせ形式が好まれたのではないと思われる。さらに、組み合わせ形式のブラウスとスカ

園児服の実態調査

調査月日  
園児の年齢( )才  
性別 男・女

下記の項目のうちで、もっとも適当と思われるものについて○印または記入をして下さい。

I 現在着用中の園児服について

1. 園児服は何枚所持していますか。( )枚
2. 洗たくのための着がえは何日位の割で着がえますか。  
イ. 毎日      ロ. 1日おき      ハ. 2日おき      ニ. それ以上( )日
3. 園児服でもっともよくほつれる箇所はどこですか。  
イ. ポケット口      ロ. 袖口      ハ. ボタンつけ      ニ. その他( )
4. 園児服のデザインについてどう思いますか。  
園児      イ. 好き      ロ. 嫌い      ハ. どちらでもない  
父兄      イ. 好き      ロ. 嫌い      ハ. どちらでもない
5. 園児服の色についてどう思いますか。  
園児      イ. 好き      ロ. 嫌い      ハ. どちらでもない  
父兄      イ. 好き      ロ. 嫌い      ハ. どちらでもない
6. 園児服に適する色はどんな色と思われますか。  
( )色

II 園児の好む色について答えて下さい。

現在園児の好きな色は何色ですか。( )色

ートは、温度の変化によって簡単に調節できました、園児の生活が遊び中心である点からも汚すことが多く、洗濯も容易にでき、いたみのひどい部分は補修したりすることからも上下を分けて管理できることは非常に合理的で好ましいものと言えよう。しかし、着丈の短かい、しかも脱ぎ着が簡単で歩行の障害にならないすっきりしたワンピースもよいのではないかと思われた。

2. 園児服の所持数

現在、園児服をどれほど所持しているか。その結果、図1の様に男児は2枚が62%、3枚が28%で2枚が最も多く、2~3枚と合わせれば90%と大部分を占めている。女児は2枚が70%、3枚が13%で2枚では男児より多く占めている。しかし、2~3枚と合わせた場合には男児よりも多少、少なくなっている。冬服については、男児は1~2枚が80%以上を占めている。女児は2枚が60%ちかくを占め、次に1枚が多く30%位を占めている。その傾向は各年齢においても同様の結果であった。

夏服の所持数が冬服よりも多いのは、汗によ

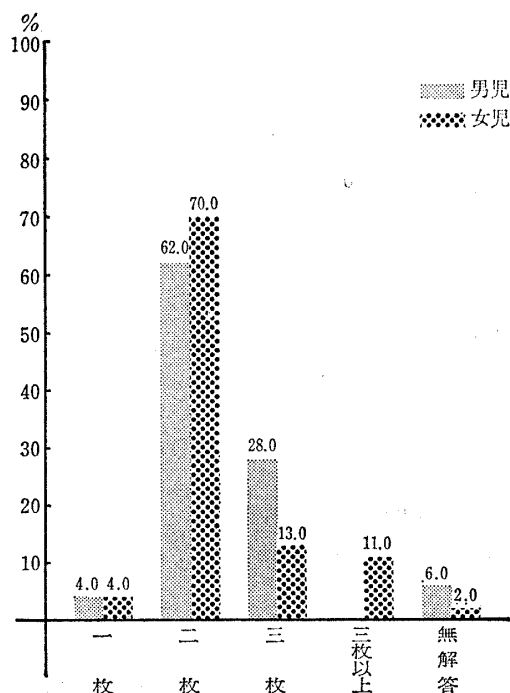


図1 園児服の所持数

る汚れや、洗濯の回数、また運動量などにも関係があると思われた。

### 3. 洗濯のための着がえ

着がえについては所持数によっても差があるが、洗濯回数による破損への影響も考えられる。結果図2の様に男児は毎日着がえるが88%で最も多く、女児は毎日着がえるが70%と男児よりも少し少ないが、1日おきに着がえるで25%を占めている。これは、男女児の性別による運動量の違いが関係してくると考えられる。また、遊びの違いによる外からの汚れの相違などもあげられると思われる。しかし、いずれにしても幼児は動きが多く、汗などの分泌物も多いので、吸湿性のある材質で、毎日着がえさせる方が望ましいと思われる。

冬服では、男女児ともに1~2日おきに着がえるのが最も多い。これは、上着の下に着用するブラウスについてであり上着については、その他、汚れたら着がえる、あるいは1シーズン着ているというものが多。これは、夏服に比べ、汗などによる汚れが少ないこと、所持数が少ないこと、また布の材質の違いなどによって洗濯にも影響してくるのであろう。材質による違いは、夏服の場合簡単に洗濯できる材質であるのに対し、冬服の場合は毛織物が多く、簡単に洗濯できないので業者に依頼するため1シーズンを通して着用することになるのであろう。しかし、夏服と同様汗による汚れがあるのでブラウスは早目に着がえることが望まれる。また上着についても着用後はブラシをかける、あるいは衿・ポケット口など汚れやすい部分は時々ふきとるように心がけると良いと思われた。

### 4. よくほつれる箇所

園児服は園児の動きが多いことや、また縫製が不備なことに関係して、いろいろな部分が破損するようである。図3の様に男女児ともにボタンつけが最も多く、女児の場合は68%もあるが、男児の場合は42%である。これは、男児の場合その他に32%と高い割合を占めているため、この中にはズボンのお尻、ズボンのつりひもの破損などがあげられる。

冬服においてもやはり、男女児ともにボタンつけが最も多い。これは、毎日かけはずしするため、縫製に関係してくると思われる。特に

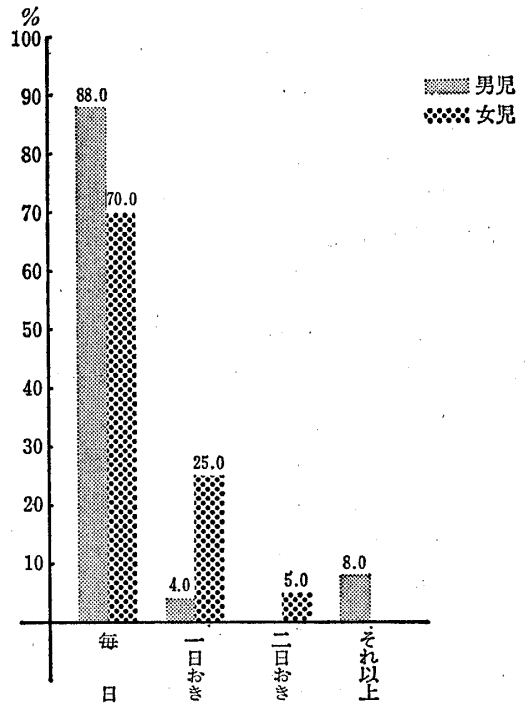


図2 洗たくのための着がえ

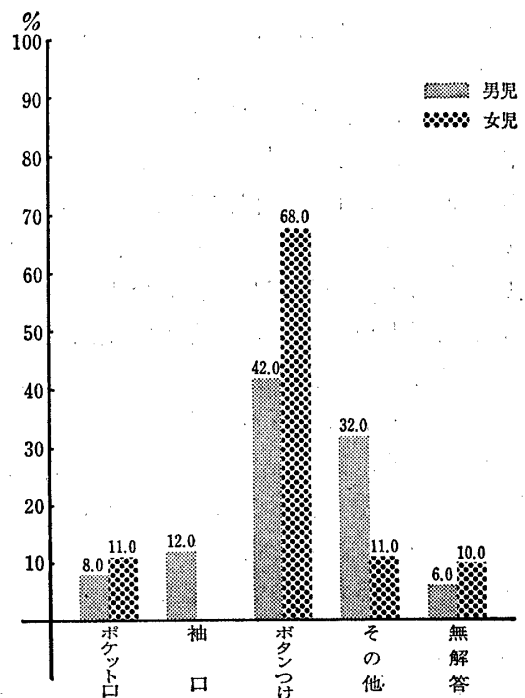


図3 よくほつれる箇所

購入してすぐのものはボタンつけがしっかりしていないためにすぐにとれてしまうのであろう。また、ポケット口がほつれるのは園児がいくどもポケットに手を入れたり、ポケットにいろいろなものをつっこむため、やはりこれも縫製をしっかりとっておかなければすぐにほつれてしまうのであろう。その他、脇縫い、袖つけ、裾のほつれなども多いようである。これらは保育年数が増すに従って多くなるようである。また、洗濯の多少にも関係してくると思われる。しかし、いずれにしても縫製をしっかりとっておかなければならないと思われた。

### 5. 園児服のデザイン

園児服のデザインについては、図4の様に男女児ともに嫌いと感じた園児は非常に少なく、父兄もまた嫌いと感じた人は少ない。しかし、園児・父兄ともにどちらでもないと感じている者が30%前後あり見逃せない。これは、園児の場合まだ自分の考えがはっきりしていないということもあるのではないだろうか。また父兄の場合は、多くの意見があったのでそのいくつかをあげてみると、

- 1) 園児にでも簡単に着られるもの、たとえば、ワンピース、またはエプロン及びビスマック形式のものなどがよい。
- 2) 男児のつりズボン是用便に不便であるので、ウエストにゴムを通したものがよい。
- 3) 夏服は、衿ぐりを広く開け、ゆとりをもたせたものがよい。
- 4) 袖口がボタンかけのものは着にくいのでスナップ・ゴムの方がよい。
- 5) ラグラン袖のものがよい。
- 6) ブラウスは伸縮性のあるニットなどがよい。
- 7) 材質は吸湿性のよい綿が望ましい。
- 8) 洗濯に耐える材質がよい。
- 9) 制服を廃止して自由な服装がよい。

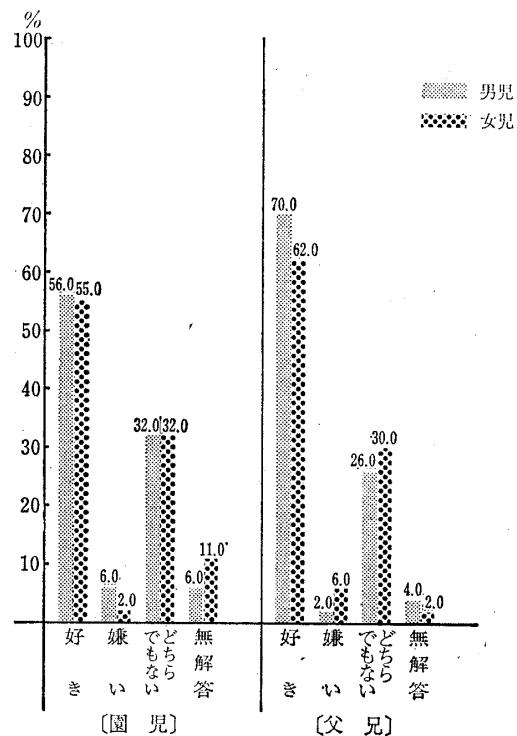


図4 園児服のデザイン

以上のような意見でもわかるように、嫌いではないが部分的に少し直してほしいとする考えから、どちらでもないと感じた父兄が多いのではないかと思われた。また好きと感じた父兄が園児より多いのは、入園希望の一要素として園児服のデザインも検討して入園させている父兄が多いと考えられる。

つまり、制服というものは、一定の決まった教育方針で教育する場合などには有効であると思われる。それは、一つのグループとして行動するときには、その団体としての個性意識が制服によって強化されるからであり、また制服をつけることによって、一定の決まったことをするんだという気持ちを習慣的に起させ、また無駄な服装上の悩みを起させないことから有効であると言えるのではないだろうか。

### 6. 園児服の色

園児服のデザインと似かよった結果で、図5の様に園児の場合嫌いと感じた女児が、男児のゼロ値に比べて少数あるのは、美意識も芽ばえそれに伴ってはっきりとした要求も明らかにな

り、女児としての主張や願望も育ち始め満足のゆくような色を求めるからではないかと思われる。また嫌いと答えた父兄が、ゼロであるのも注目してよい。これは、好きの数値増加に流れたためではないだろうか。父兄の場合好きと答えた人が、園児に比べて多いことから父兄は現在の園児服の色に満足しているのではないかと考えられる。しかし、女児の父兄にどちらでもないと答える者が、男児の父兄の2倍以上あるということは、女児の園児服に対する色の難しさからきていると思われる。

また、どちらでもないと答えた父兄の中には、小さいうちは自分の好みの色を身につけさせてあまり大人の考えでしぼりたくないという意見もあった。

### 7. 園児服に適すると思う色

制服の色を決めることは大変難しく、いろいろなことを考え合わせて決めなければならないが、一般にはどのような色がよいと考えられているのであろうか。

結果、夏服では水色がよいという意見が最も多く、次に青・紺・グレー・白などが多い。いずれも寒色系の色で少し淡い色を好むようであった。冬服では、男服の場合には茶色・青・濃紺が多く、グレーも多少あったが、女児の場合には濃紺・エンジ・グレーといった色であった。男女児ともに夏服と同様寒色系であるが、少し濃い色があげられている。また、女児の場合エンジがあげられているのは注目すべきであろう。

以上のことから、一般に現在園児服に用いられている色が多くあげられているのは、やはり制服に用いる色として、青・紺・水色・茶系統などが固定化されているためではないかと考えられた。

### 8. 園児の好きな色

幼児期には、それぞれに好みの色が決まってくるようであるが、それではどのような色が好まれているか。結果図6の様に男児の好きな色は青が一番多く、他に緑・水色・黄・赤などが多く好まれていた。図7の様に女児の好きな色は赤・ピンクがトップを占め、他には黄・水色・青などがあげられた。これは、男女児ともに一般的に男の子らしい色、女の子ら

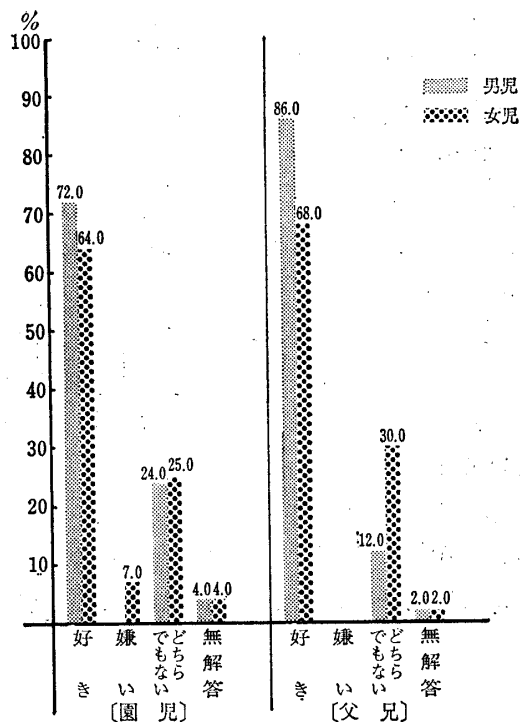


図5 園児服の色

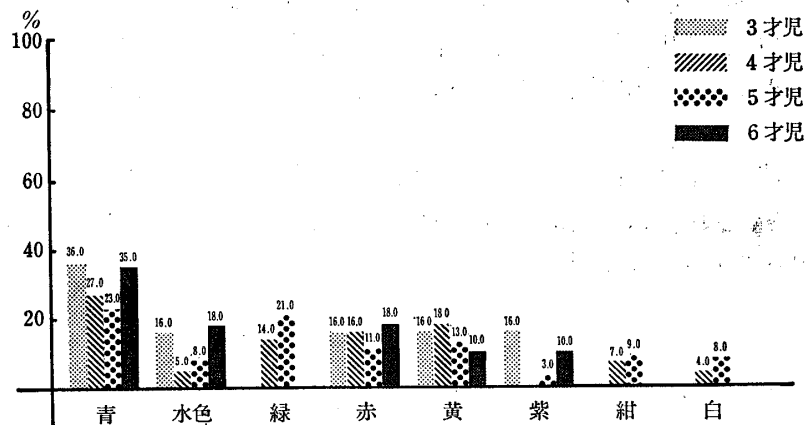


図6 園児の好む色(男児)

しい色とされるものが園児の好みとしてでたのではないかと推察される。

幼児は色の名称を知る前から色を区別して赤・黄・青・緑の4色は5才児の大部分が、ことばで表現できるようになり、色に対する関心は、3～4才からだんだん深まっ

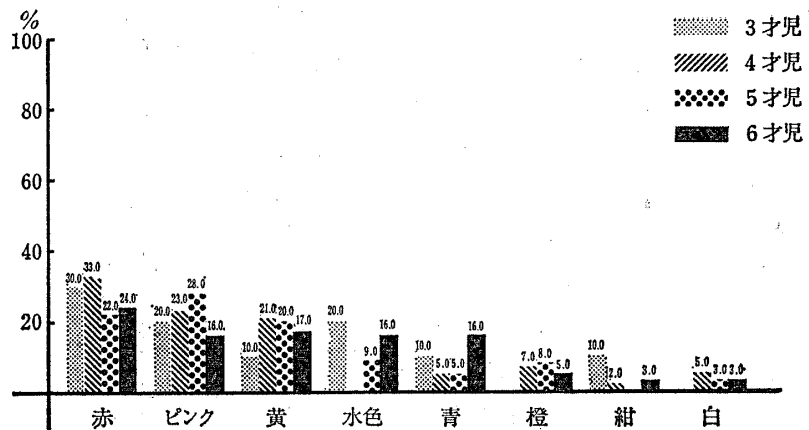


図7 園児の好む色(女児)

幼児期では純色を中心とした生き生きとした配色が好まれている。これは、幼児が中間色よりも純色を好み、にごった色よりも明色にひかれていくことであろう。つまり、幼児期においては快よいものを求める衝動にふりまわされているためではないかと思われた。

## 結 論

以上の調査結果から見て

1) 園児服の所持数は、夏服の場合2～3枚所持しているが、冬服の場合は1～2枚であった。

2) 洗濯のための着がえは、夏服の場合汗によって汚れるため、毎日着がえるが多い。冬服の場合ブラウスは1～2日ごとに着がえるが多く、上着及びスカート・ズボンなどは一週間位でかえる。あるいは汚れが目立つようになったらかえるという意見が多い。

3) よくほつれる箇所としては、夏・冬服ともにボタンつけが多い。その他としては男児の場合ズボンのお尻・袖つけなどもあり、女児の場合は裾・衿つけなどであった。

4) 現在の園児服のデザイン・色については嫌いという意見はごくわずかで、好きもしくはどちらでもないという意見のようであった。

5) 園児服に適すると思う色は、夏服の場合は青・水色などで、冬服の場合は濃紺・茶系統・グレーなどが多い。いずれにしても現在制服によく用いられている色が主であった。

6) 園児の好む色は、男児の場合は青が一番多く、次に緑・水色などであり、女児の場合は赤・ピンクが多く、次に黄・水色・青などであった。

以上、園児服の実態調査を行なった結果、現在着用されている園児服と園児自身の好みに相違があることが考えられたので、今後は父兄・子供の意見も含め検討する必要があると思われた。

終りに、本研究を行なうにあたり、奈良女子大学水梨サワ子先生、並びに本学卒業生稲垣裕見子、山口佐知子さん及び、調査に御協力いただきました幼稚園並びに父兄の方々に対し深く感謝の意を表します。

## 参 考 文 献

- 1) 小林重順：1967，デザインのための色彩心理学。
- 2) 村山真雄編：1967，幼児の生理・心理・知能（幼稚園保育全集1巻）